

江戸時代の松前文化を伝える木像群

08

もくぞう ごひゃく ら かん ぞう

木造五百羅漢像



■ 所在地：小樽市潮見台1丁目19番10号

■ 問合せ先：宗圓寺 (TEL 0134-22-7772)

■ 拝観：4月～10月の毎1日、15日 (午前9時～午後5時) 冬期間は拝観できません

五百羅漢像が安置されている宗圓寺は、寛永7 (1630) 年に松前藩主の菩提寺として松前 (福山) に建立され、その後、明治維新による松前藩の廃藩を経て、明治42 (1909) 年、小樽在住の松前出身者の要請で現在地に移転しました。移転の際に、本堂 (現存せず)、建立時に招来された本尊の釈迦如来像 (室町後期作)、そして五百羅漢像が招来されました。

北海道指定文化財となっているのは、本尊の周りに安置された五百羅漢像です。「五百羅漢」と言っても500体が一時に作られたのではなく、時代や製作者の異なる羅漢像の集合体であることが調査によって明らかになっています。特に、室町時代終わり頃の作が11体 (木造五百羅漢像の中では最古)、また、天明8, 9 (1788～89) 年に松前城下の能面師が作成した物があることなどから、古い羅漢像と、

江戸時代中期から明治初期までに作られ寄進された羅漢像とで構成されていることが分かりました。

このような木造五百羅漢像の特徴的な成立過程からは、室町時代から明治初期に至るまで、仏教に祈りを寄せてきた人々の心がうかがえます。

北海道の仏教文化や、江戸期における仏像彫刻技術を検討する上で、貴重な資料となっています。

●キーワード：小樽の仏像

小樽での正式な寺院の建立は、龍徳寺、量徳寺、西別院など幕末に始まる。安置される仏像は、廃仏毀釈などの影響を受けているが、平安前期 (浅草観音寺聖観音立像)、江戸初期 (日光院観音立像) など古代から近世初頭の仏像が存在する。



【写真】1 五百羅漢像 (一部)

2 宗圓寺外観